

恋叶ロード♡二人の聖地

ロマンチックなデートスポットが沿道に点在する大分県豊後高田市の通称「恋叶ロード」(国道213号)で、人道トンネル内に描いた恋にまつわる壁画や、ハートのラッピングを施した路線バスが話題を呼んでいる。春の行楽シーズンを迎え、若いカップルたちの人気を集めそうだ。



①恋人同士が座るバス停のベンチをイメージした「恋叶ロード行き」②運命の赤い糸で結ばれた二人をイメージした「赤い糸 Koikana Road」③「ハートの魔法」をテーマに鮮やかにラッピングされた路線バス(豊後高田市提供)



豊後高田市昭和の町〜長崎鼻の20キロ

恋叶ロードは、市中心部にある観光名所「昭和の町」から、花の岬として知られる「長崎鼻」(同市見目)までの全長約20キロ。沿道には、縁結びの神様として女性に人気の粟嶋社や、「日本の夕陽百選」に選ばれた真玉海岸などがある。

も市のホームページなどでデザインを公募し、全国から集まった20点を10点に絞った上で、同部に制作を依頼した。

さらに魅力をアップしようと、市は2015年度から、同海岸に近い真玉人道トンネル(全長421メートル、同市中真玉)の壁面に、恋にまつわるイラストを描く取り組みを始めた。

15年度は、地元の高田高美術部の協力で5点を制作。16年度

トンネルに壁画 バスにラッピング

見えるよう、何度も試し撮りして確認しながら彩色した。色をぼかすことも壁面では難しく、スポンジや使い古しの筆でたたくように塗るなど試行錯誤を繰り返した。

部員7人が制作を始めたのは寒さが厳しい1月末。トンネル内の温度は10度を下回り、海風も強い。「手先は凍え、体感はずっと寒かった」と振り返る都甲真以部長(17)は、3月18日にあった披露会で「古里のにぎわいを取り戻すために役立てればと一生懸命描いた。ぜひ見に来て」と呼び掛けた。

計15点になったイラストはトンネルの半分ほどを彩っており、市は今後も増やしていく予

菜)花2000万本見頃

恋叶ロード終点に当たる花の岬とし知られる長崎鼻では、約00万本の菜の花が見頃をえている。

岬の丘陵地14畝に植えられた黄色いの花と真っ青な空と海とコントラストは、観光客高い人気を

誇る。長崎鼻でキャンプ場を運営するNPO法人「長崎鼻B・Kネット」が2007年から、耕作放棄地に菜の花やヒマワリを植え始めた。取れた種を搾ってオイルに加工して販売。収益金などを基に作付面積を年々

広げ、菜の花畑としては九州最大級になったという。

彫刻家やイラストレーター3人が制作した作品も新たにお目見えし、見物客の目を楽しませている。市が進める「岬づくりプロジェクト」の一環で、2018年度も別のアーティストによる制作を進める予定という。

定だという。一方、沿道を走る路線バスも「恋人たちの聖地」に彩りを添えている。

3月19日から登場したのは、鮮やかなピンク色の下地に白いハートマークなどをあしらったラッピングバス。テーマは「ハートの魔法」だ。路線バスを運行する大交北部バス(大分市)に、市が協力を依頼。毎日3往復、現地を走り雰囲気を盛り上げていく。

市は「恋叶ロード沿いの恋愛スポットを今後も増やし、魅力を高めていきたい」と意気込んでいる。

(吉川文敬)